

自治体の紹介

背景

東近江市は、滋賀県の南東部の湖東平野中央部に位置し、近畿圏と中京圏の中間に当たります。東西に長く、東は三重県との県境に接しています。市域の56%を森林が占め、鈴鹿の山々から琵琶湖まで一本の水系でつながる、森・里・川・湖といった多様な姿を見せる自然資本が大変豊かなまちです。



現状の課題

東近江市が直面する課題

環境

- ・ 循環型社会への移行
- ・ 脱炭素社会の実現
- ・ 生物多様性の低下
- ・ 歴史・文化資本の継承と活用

経済

- ・ 地域資源の活用、地域産業の後継者不足
- ・ 市外での消費、化石燃料等購入による資金流出

社会

- ・ 人口減少、超高齢化、少人数世帯化の対策
- ・ 集落活動の維持、人と人とのつながりの喪失

環境・経済・社会の側面から総合的なアプローチ

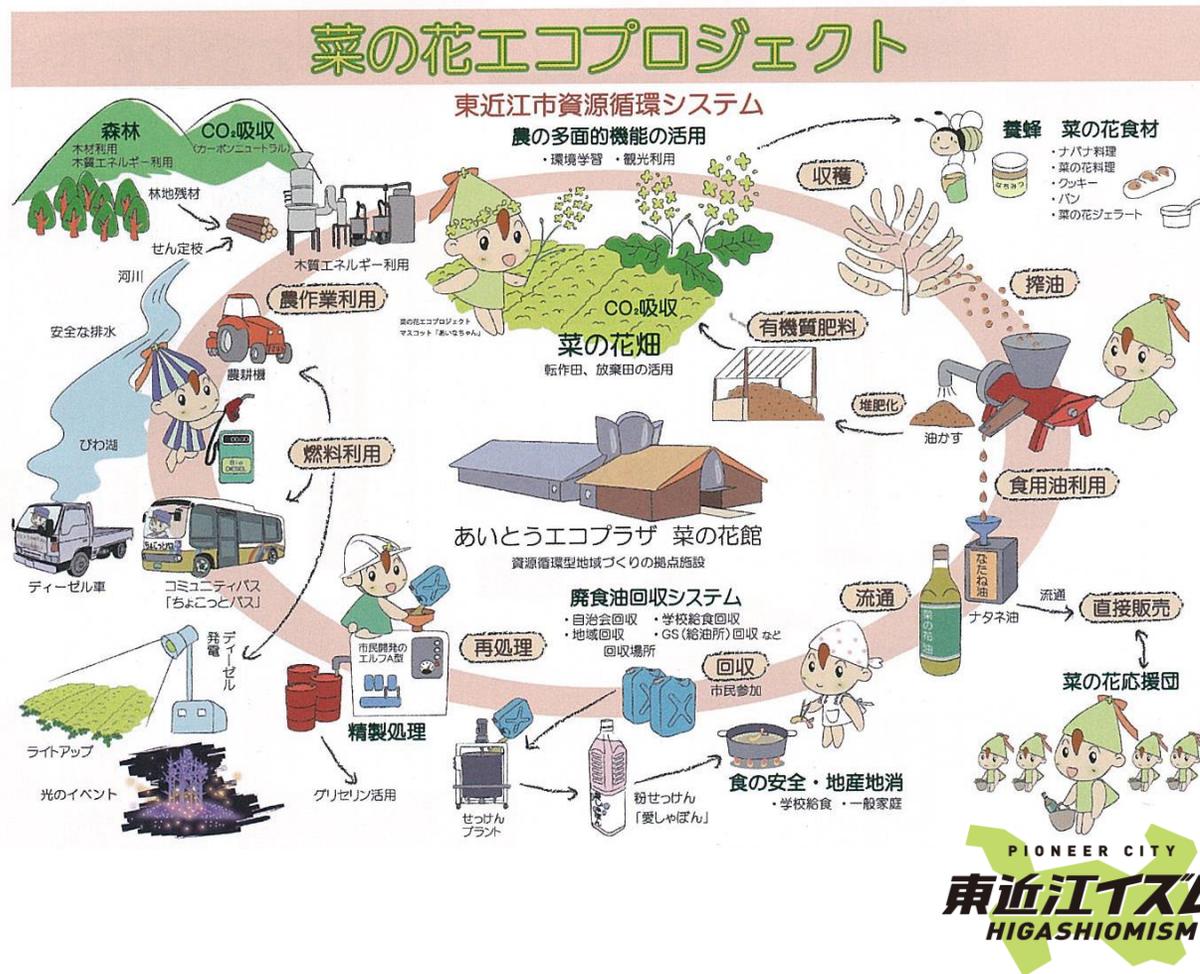


事業の目的

「市民が豊かさを感じる循環共生型社会」を目指して、地域住民とともに地域資源を活用し、地域におけるエネルギーと食の自立に取り組めます。

事業内容

- ・あいうエコプラザ菜の花館を拠点に菜の花エコプロジェクトを推進しています。
- ・転作田を利用して菜種の有機栽培を進め、東近江市産100%の菜種油「菜ばかり」を生産・販売しています。
- ・市内の家庭などから集めた廃食油を粉せっけん（リサイクルせっけん）やバイオディーゼル燃料（BDF）にリサイクルし、市内での利用を進めています。
- ・主要作物である水稻のもみ殻からくん炭を製造し、環境こだわり農業の土地改良資材として販売しています。



得られる
成果等

- ①化学製品や添加物を使用せずに菜種栽培を進め、東近江市産100%の菜種油「菜ばかり」を生産・販売し、二酸化炭素の吸収源としています。 → 地域の稼ぐ力を創出
- ②廃食油（約28,000L/年を回収）はごみとして処分せず、粉せっけん（リサイクルせっけん）やバイオディーゼル燃料（BDF）の資源として活用しています。
→ 取組を通じた人と人とのつながりを創出
- ③搾油時に発生する油かすは、堆肥利用し有機質の肥料として販売しています。 → 地域資源の活用
- ④もみ殻からくん炭を製造し、環境こだわり農業の土地改良資材として販売しています。また、くん炭には、CO2を地中に固定する作用もあり、Jクレジットにも認証されています。
→ 脱炭素社会への実現、CO2の固定、地域資源の活用

課題：拠点施設が老朽化し、施設と事業のリニューアルが必要に。

寄附を
する
メリット
等

- ・東近江市の地域内資源循環モデルへの支援を通じて、環境にやさしい企業としてPRできる。
- ・バイオディーゼル燃料（BDF）やJクレジットの認証を受けているもみ殻くん炭の利用促進に寄与することで、カーボンニュートラルに取り組める。

連絡先

滋賀県東近江市環境部森と水政策課 Tel：0748-24-5524

ホームページ： https://www.city.higashiomi.shiga.jp/soshiki/29-3-0-0-0_12.html

Email： morimizu@city.higashiomi.lg.jp